

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171600234		
法人名	医療法人 至慈会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	佐賀県 杵島郡 白石町大戸ヶ里1831番地18 (電 話) 0954-65-3129		
評価機関名	社団法人 社会福祉士会 佐賀県福祉サービス・調査センター		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年10月23日	評価確定日	平成 19年12月31日

## 【情報提供票より】(平成 19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	19 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算

### (2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり		1000 円

### (4) 利用者の概要( 10月23日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高島病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほのぼのは、医療法人が母体で同敷地内に病院、介護老人保健施設があり、入居者は、体調の変化に応じいつでも外来で医療受診ができ、緊急時の医療体制も整っており、家族も病院が運営するグループホームで安心されている。建物は木造2ユニットのバリアフリー住宅で、誰もが気軽に立ち寄れるように玄関は開放されており、吹き抜けの天井からは陽が差し込み、明るい落ち着いた雰囲気である。内部も、和風の建築になっており、入居者が昔ながらの自宅の雰囲気を感じられるような工夫が見られる。入居者は家事等それぞれの役割を受け持ち生活されている。職員も「その人らしさ」を尊重し自立に向けた支援を提供されている。また、行事には家族も参加され、介護者が一方的な支援にならないように、家族と共に取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、運営推進会議で報告、職員全体で検討改善が行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員が日常業務の中でサービスの確認を行い気づき等をその都度検討する取り組みがある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議には行政をはじめ、民生委員、法人代表、社会福祉協議会、家族の参加で意見交換、ホームの取り組み等の報告が行われている。今後は定着されている参加者に加え、ホームの行事前の関係者の参加や様々な分野の方の参加を呼びかけ、多様な意見をサービス運営に取り入れられることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情については、苦情相談窓口を明記した文書の配布を家族に行っている。意見については、手紙や家族の訪問時に伺いながら運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの行事等についてはボランティア、地域の方の協力が年々増えている。今後はさらに、入居者、職員が地域の行事に積極的に参加し交流を深めていく取り組みを期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を尊重し、「その人らしさ」を大切にしながら、一つの家として「ほのぼの」と生活を送り続けるという理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の言葉だけを伝えるのではなく、日々の生活の中で行動に移しながら言葉にして伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事へは地域の方、ボランティアの参加があり、交流が図られているが、積極的に地域の行事に参加することに対しては、まだ十分なされていない。	○	今後地域の方との交流をさらに深めて行く為にも入居者、職員が地域行事への参加を行う取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が自己評価を行い、さらに職員全体でも検討を行い集約、改善への取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、取り組み状況や報告内容をグラフや写真等で解りやすく報告し、会議での意見をサービス改善に活かす様な取り組みがされている。	○	出席者が固定化されている為、より多様な意見を聴く為にも様々な分野からの参加を呼びかけ、さらに、サービスの質の向上につなげられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて町の福祉課や社会福祉協議会等と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に職員の交替を伝えている。また生活状況、健康状態等は個別に手紙や電話等で定期的に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、家族へ配布されている。要望や意見等があれば、その都度対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、周りの職員がフォローするように心がけている。また、職員は日頃より両棟を行き来し、できるだけ両棟を把握し、ユニットの異動には入居者が違和感を感じない様な取り組みがされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、職員が課題をあげ自発的に研修テーマを決め、定期的に研修を行っている。外部研修会はホーム内に掲示し希望を募り、勤務調整を行いできるだけ希望に添えるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者とのネットワークづくりがなされており、年間行事には他のグループホーム職員の参加での交流や、管理者同士での情報交換の場をもうけ交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して生活していただける様に、入居前に本人宅を訪問し職員に馴染む時間を作り、入居後は会話を多く持つ事で信頼関係を築けるよう心がけている。又家族との関わりを多く持つ場合、家族と距離をおく必要がある場合を見分け個々のケースに合った関わり方を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時の基本情報で生活歴を把握し、精神面、身体面に合わせた自立支援の取り組みがなされ、「共に生活を送る」という理念の下、支えあえる関係作りに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の情報収集、家族より話を聞き入居者の理解を深めるよう日々心がけ、得た情報においてはその都度個人ノートに記録し、職員間で共有できる仕組みがつけられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴等を通して、今までの生活習慣を活かした介護計画になる様に、担当者会議で話し合い、それぞれの意見、課題を含めて介護計画に反映している。	○	介護計画作成に伴い必要な関係機関の意見を取り入れる仕組みはあるが、担当者会議に家族・本人が参加することなどで、双方の現在の思い、意見、課題が共有理解される事でより良い介護計画が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行ない、身体状況や精神状況の変化、家族・本人の要望に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、理髪店への外出等入居前の生活習慣を大切に する意味でも、外出には柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の意向に添って、法人外の病院を希望される場合は尊重し、併設病院を希望される場合は、かかりつけ医として容易に受診できるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所者の体調変化時は家族・かかりつけ医・管理者と協議しながら対応されているが、方針を書面に表し、家族の同意を受けるには至っていない。	○	重度化・終末期の方針を共有する為にも、指針の策定と文章等で明記し、家族等へ伝えていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては同意をとり、保護に努めている。また、言葉かけについては慣れ親しむ言葉にも注意しながら、信頼関係が築けるよう努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は無く、基本的には自由に過ごせるよう支援されているが、日常生活の中でどうして過ごしてよいか分からない入居者に対しては、職員より働きかける取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食器洗い、食器拭き等の役割がそれぞれの出来る範囲で職員と一緒に行われている。また、嘔む力や飲み込む機能に合わせた食事形態の工夫や配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在設定している時間帯(14時～17時)で自由に入浴できるようにされている。また、希望があれば希望される時間で対応されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑を作る事が好きな方には畑に携わる事で役割を持つなど、生活歴を知り経験や得意な事を発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ行きたい時にはいつでも外出できる様職員の勤務体制を配慮し、買い物、草取り、野菜・花づくり等、屋外で活動できる様に支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は完全開放し、外出しようとしている入居者に対しても止める事なく、いつでも職員と一緒に外へ出てついて行き安全面に配慮して一人ひとりの状態にあった支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が行われている。また、昼間に夜間想定訓練を行い併設施設との連携を図れるようにしているが、地域の協力のもとでの実施にはまだ取り組まれている。	○	同法人内だけでの防災訓練だけではなく、地域の方、地元消防団等の協力体制の確認、避難経路の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	予定表を作り入居者の希望を踏まえて、管理栄養士によりカロリーバランスを考えた献立が作成されている。また、食事の摂取状況、水分摂取状況の把握もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが良く取り込まれ、居間、食堂等で入居者がくつろがれており、共有する洗面所には車椅子利用者用の鏡が置かれる等、生活しやすい空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用の品々が持ち込まれ、自由に模様替えをしたり、生活スタイルに合わせた落ち着いた居室が提供されている。		